



質問席

# 誰一人取り残さない公園の取り組みは

石崎 誠子議員

先進事例も参考に施設整備内容を考える

産業建設部長



▲誰もが遊べるユニバーサルデザイン遊具

**問** 誰一人取り残さない公園「インクルーシブパーク」の今後の取り組みは。

**答** 障がいのある子どもとない子ども、それぞれ違う能力を持った子どもたちが同じ遊具を共有して遊ぶことで成長し合える場所になると考える。遊びを通して相互理解を深めること等を念頭に置き、他の自治体の先進事例等も参考にしながら、施設整備の内容を考えていく。

**問** 道の駅リニューアルと共に整備される「愛西市花はす公園」は、どのような配慮をされた計画か。

**答** 高齢者、障がい者等を含むすべての利用者に対応した公園整備を目指している。

**問** 昨年度策定された「道の駅周辺整備基本計画」では、東ゾーンに「子どもの遊び場」があり、遊具施設を導入する計画だが、ユニバーサルデザイン

遊具を取り入れて「愛西市花はす公園」にインクルーシブパークを整備することはできないか。

**答** 今年度業務において、公園内に設置する遊具施設等の整備内容の方向性を検討する。

## 防災分野にもっと女性の視点を

**問** コロナにより金銭的な理由から生理用品を購入できない女性への支援として、防災備蓄品を配布することはできないか。

**答** 使用期限等を考慮し、今後検討をしていきたい。

**問** 東日本大震災で、特に問題視された、女性や子育て家庭、災害時要配慮者、子どもなどへの配慮不足は、避難所運営に女性の視点が入らなかったことに起因している。意思決定の場に女性の参画が重要である。市の防

災分野において、女性の視点を反映させる体制は、内閣府作成の「災害対応力を強化する女性の視点ガイドライン」を活用する考えは。

**答** 防災会議に女性委員を積極的に登用し、地域防災計画など女性の視点からの意見を聞いている。ガイドラインも参考にし、より女性の視点が反映されたものとなるよう取り組んで行く。